**平成２７年度　第２回　大阪府動物由来感染症対策審議会**

■日時：平成２８年３月１７日（木）１０:００～１２:００

■場所：大阪府立公衆衛生研究所４階講堂

■出席者（敬称略）：

|  |  |
| --- | --- |
| 氏名 | 所属・職 |
| 小崎　俊司 | 公立大学法人　大阪府立大学大学院  生命環境科学研究科　名誉教授 |
| 佐伯　潤 | 公益社団法人　大阪府獣医師会　会長 |
| 吉村　高尚 | 大阪市保健所長 |
| 山﨑　眞理江 | 堺市保健所長 |
| 髙野　正子 | 高槻市保健所長 |
| 松岡　太郎 | 豊中市保健所長 |
| 笹井　康典 | 枚方市保健所長 |
| 鳥居　幸子 | 大阪府市長会　代表 |
| 久留飛　克明 | 大阪府立箕面公園昆虫館長 |
| 福島　俊也 | 大阪府健康医療部保健医療室長 |
| 柴田　敏之 | 大阪府健康医療部保健医療室医療対策課長 |
| 山形　三津留 | 大阪府健康医療部環境衛生課長 |
| 西池　公男 | 大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課長 |
| 山本　祥二 | 大阪府家畜保健衛生所長 |
| 松浦　玲子 | 大阪府保健所長会　代表 |
| 加瀬　哲男 | 大阪府立公衆衛生研究所感染症部長 |
| 久米田　裕子 | 大阪府立公衆衛生研究所細菌課長 |

　欠席者（敬称略）

|  |  |
| --- | --- |
| 氏名 | 所属・職 |
| 宮川　松剛 | 一般社団法人　大阪府医師会　理事 |
| 細井戸　大成 | 公益社団法人　大阪市獣医師会長 |
| 松本　小百合 | 東大阪市保健所長 |
| 堀野　喜弘 | 大阪府町村長会　代表 |
| 齋藤　浩一 | 大阪府健康医療部食の安全推進課長 |

■会議の成立

「大阪府動物由来感染症対策審議会規則」第５条第２項に規定される定足数（委員の過半数）

を満たしており、有効に成立している。（委員数：２２名。出席者：１７名、欠席者：５名。）

■議事内容

１．来年度以降の感染症関係審議体制について

・輸入感染症の国内発生等、新しい感染症に迅速に対応するため、また、審議体制の簡素化を図るとともに、効率的で迅速な審議体制を整備することが必要となり、「大阪府感染症対策審議会」を新たに設置する。各疾病ごとに設置されていた審議会を、感染症対策全般を大きく網羅した形で「感染症対策審議会」として再編し、輸入感染症、動物由来感染症等における医療分野での対応は、「感染症対策部会」で取り扱う予定する。

・既存の各審議会からの代表を新委員として計画している。専門知識のある委員には今後も引き　続き参画いただく。

・動物由来感染症については、媒介動物や昆虫のサーベイランスの実施に係る専門家の意見聴取や今後の対策、サーベイランスの結果報告や計画について検討する委員会を設置する。

・条例改正の上、平成28年4月1日に施行する。

２．「平成２７年度サーベイランス実施状況の概要について」

・高病原性鳥インフルエンザについて、農場での検査は、H5N1に限らず実施。今年度は海外で夏場にも継続発生していたため、例年と違い、強化モニタリングを通年実施した。

・豚の日本脳炎は、関連繁殖農場をもつ２ヵ所について抗体調査を実施した。

・狂犬病について、動物管理指導所各分室に抑留、引き取り、または収容された犬のうち、抑留期間中に死亡、または譲渡不備・不適当となったものを対象に検査。これは下半期、９月から開始した。

・豚のレプトスピラ症、レンサ球菌感染症、豚インフルエンザについては、病気の原因究明のために家畜保健衛生所に持ち込まれた豚について調査。

３．「蚊が媒介する感染症のサーベイランス検査の結果について」

ウエストナイル熱サーベイランス結果報告

　　・府内１５ヶ所にて蚊を捕集・検査を実施し、2週間おきに計8回行ったが、２２２３匹採集した。検査は、全て陰性。蚊の種類としてはヒトスジシマカとアカイエカ群でほぼ１００％を占めている。サーベイランスを実施して以来、傾向は変わりない。

　　・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市においても同時期に、蚊の捕集・検査

を実施したが、全て陰性であった。

４．「動物（家きん）における鳥インフルエンザに関するサーベイランス検査の結果について」

・府内における家禽でのサーベイランスについては、国指針に基づき、３養鶏農家について毎月「定点モニタリング」、府内全養鶏農家と防疫上必要と認識している小規模飼育施設等について「強化モニタリング」を実施。例年、強化モニタリングは夏以外で実施していたが、今年度は夏場も周辺国で発生しており侵入リスク高いため、通年実施。「異常鶏監視モニタリング」は府内全養鶏農家及び小規模飼育施設等を対象に臨床検査、野鳥が多く飛来するため池や河口等において、水鳥の糞便を採材し、「水禽類モニタリング」を実施。検査結果は全て陰性。「病性鑑定」は、農場で異常鶏が発生した場合に実施する。今年度は発生なし。

・海外における家禽での発生状況については各国で多数発生。日本は現在OIEの規定に基づき清浄国となっている。台湾、韓国等では昨年と違い、今年は夏場も発生が継続。

・鳥インフルエンザA亜型の人への感染事例について報告。鳥インフルエンザA（H５N１）

は、夏の報告から増加が見られず落ち着いている。鳥インフルエンザA（H７N９）は、平

成２５年に初めて中国においての感染の報告があったが、平成２７年1月に二類感染症に

追加された。患者の発生は、ほとんどが中国本土であり、季節性インフルエンザと同様に

冬場に患者の増加がみられる。日本における患者の報告はない。

５．「アライグマに関するサーベイランス検査の結果について」

・アライグマ防除実施計画に基づき、府内３箇所、動物一時保護センターと家畜保健衛生所及び南部支援施設で収容されたアライグマ（尿と血液）を検体とし、検査を実施した。

・レプトスピラ症については、１０６検体中、９検体陽性。

・トキソプラズマ症については、１００検体中７検体、陽性。

・Ｑ熱の調査については、１００検体中、全て陰性。

・平成22年度から調査しているが、６９３検体全て陰性。来年度も継続すべきかどうか、意見を伺いたい。

　　・日本紅斑熱の調査については、１００検体中１検体、陽性。

６．「犬の狂犬病モニタリング」について

　　・厚生労働省から、各自治体に対し、監視体制の強化するよう協力依頼があり、これを受け、疑い事例に加え、症状の有無にかかわらず収容動物等について、モニタリング検査を実施。８検体検査し、全て陰性。（うち、２検体は無許可飼育のアライグマで、子供を咬んだため検査実施。）

７．「その他のサーベイランス結果について」

　　・結核については、牛においてツベルクリン検査を実施。７２６頭検査し、全頭陰性。

　　・牛の腸管出血性大腸菌については、糞便を２２７検体検査し、全て陰性。また、枝肉を　　　３０１検体検査し、全て陰性。

　　・豚インフルエンザについては病気の原因究明のため、家畜保健衛生所に持ち込まれた豚について検査。1頭検査し、陰性であった。

・豚における日本脳炎について、農場２戸において８０頭検査し、２頭陽性。

・牛のブルセラ症について抗体を調査。１９９頭検査し、全頭陰性。

・レプトスピラ症（豚）、トキソプラズマ症（豚）、豚レンサ球菌感染症については豚インフルエンザと

同じ検体を用い検査。1頭検査し、陰性であった。

・BSE検査については48ヶ月齢以上の牛について検査を実施。食肉衛生検査所における検

査は１４４頭、死亡牛については５０頭検査し、全頭陰性。

８．「平成２８年度サーベイランス実施計画について」

・腸管出血性大腸菌（枝肉）とBSE（食肉衛生検査所）の検査機関が２ヵ所から１ヵ所になる。

・今年度下半期から開始した狂犬病は、通年実施。

・トキソプラズマ症は検査キット販売終了並びに豚肉の生食禁止で人へのリスクが減ったことにより、検査中止。

・Q熱は今まで抗体の検出はなく、来年度から中止。

９．「動物由来感染症疾患報告数」

　　・腸管出血性大腸菌症においては全国３,５６１例､大阪では３７１例報告。その中でＯ157

が約８割を占めている。

　　・エキノコックス症については豊中市で1事例報告あり。北海道訪問歴約１５回。

・重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）は、６０例の報告があり。今年は、三重県、京都府、福岡県、香川県、石川県において初報告。大阪府での発生はない。

・つつが虫病については全国で４１５例報告があり、うち鹿児島県で６９例報告があり、５年連続全

国1位。

・デング熱は全国で２９２例、大阪府で１９例報告があった。チクングニア熱は全国で１７例、大阪で２例報告あり。デング熱、チクングニア熱ともに、いずれも海外で感染した輸入例であった。

　　・日本脳炎は全国で２例。千葉県の０歳男児は千葉県内で２５年ぶりの発生。

　　・ブルセラ症の報告は全国で４例、大阪府での報告はない。1例、ソマリアでラクダの肉や乳、チーズの摂取歴があった。（その詳細はIASRで報告あり。）

８その他の動物由来感染症対策に関する事項等について

「重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）について」

・平成２８年２月２８日現在で、全国で１７３名の報告あり。うち４８名が死亡。

「中東呼吸器症候群（ＭＥＲＳ）について」

・今年５月に韓国における、輸入症例の患者の発生し、その後、院内感染が起こり、患者が増えた、感染者１８６名、うち死者３６名となる事例となった。韓国においては平成２７年１２月に終息宣言がなされている。

　・ＭＥＲＳは、平成２８年３月２日現在で、患者数は１６４４人。（内、死亡者５９０人）

　・渡航先でラクダと接触すると、健康監視対象になるという情報が浸透していない。

「蚊媒介感染症について」

・平成２６年夏に約７０年ぶりにデング熱の国内感染事例が発生した件をうけ、平成２７年４月に「蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針」が施行、「デング熱・チクングニア熱等蚊媒介感染症の対応・対策の手引き　地方公共団体向け」が策定された。

・平成２７年６月～８月に蚊の捕集作業に関する研修等を実施。

・蚊対策薬品（幼若ホルモン剤：スミラブ）の備蓄について株式会社葯信社と協定締結。（平成１７年1月）

・大阪府として、蚊が媒介する感染症発生時に蚊の駆除体制の充実を図るため、蚊の駆除業務等に係る協定を（一社）大阪府ペストコントロール協会と締結。（平成２７年８月）